

サボテン温室におけるリュウゼツラン属 (Agave) 4種の開花について

林 良 之

サボテン温室では、昭和53年11月に *Agave* 約20種を地植えし、育成・展示しているが、61年から62年にかけてこのうちの4種が開花したので記録する。

花茎の伸長

花茎の発生を確認した日から開花日までの伸長速度は、ミダレユキでは17日間で200cm (1日平均約11.8cm) だったのに対し、ライコウでは290日間で92cm (1日平均約0.3cm) と大きな差があった (表1参照)。このように、花茎の伸びる速さは種によってかなり異なっていた。

花茎の形態 (表1, 図1参照)

〈ファイリウスバリユゼツ〉花茎は分枝し、枝数は31。1枝当たりの花数は平均90個ほどで、総花数は3000個近くになると考えられる。

〈ミダレユキ〉花茎は分枝せず、花は花茎に直接つく。花は針形の苞の腋に2個ずつつき、総

花数は約1500個であった。

〈ライジン〉花茎は分枝し、枝数は10。1枝当たり平均約10個の花をつけた。

〈ライコウ〉花茎は上部で分枝し、枝数は8。1枝当たりの花数は平均50個ほどであった。

花の形態 (図2参照)

4種とも花序の下から上へ順に開花し、子房下位で外花被3, 内花被3, 雌蕊1, 雄蕊6からなる筒状花であった。なお、花の各部の長さを測定し、表2に示した。

開花後の状況

開花した株は4種とも枯死した。ライジンについては果実の形成がみられたので、開花後169日目に採取した。1果に約250個の種子があり、大部分は白色の不完全種子であったが、1果当たり4~12個 (平均7個) の黒色の種子が得られた。これを播種したところ、発芽は良好であった。

参考文献

Gentry, Howard Scott. 1982. *Agave of continental North America.*

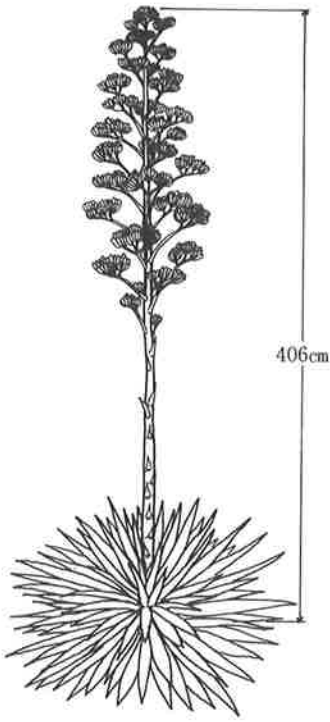
表1. *Agave* 4種の開花状況

学名	園芸名	花茎発生確認日 (当日の花茎の長さ(cm))	開花日	開花時の 株高(cm)	開花時の 花茎の長さ(cm)	開花時の花茎 基部の直径(cm)	花 色
<i>A. angustifolia</i> Haw. cv. <i>Marginata</i>	ファイリウスバ リュウゼツ		61年 6月25日	68	338	9.2	黄緑色
<i>A. filifera</i> Salm-Dyck	ミダレユキ	61年6月25日 (156)	61年 7月12日	44	356	4.8	紫赤色
<i>A. potatorum</i> Zucc. var. <i>verschaffeltii</i> A. Berger	ライジン		61年 9月7日	20	124	2.6	黄緑色
<i>A. parrasana</i> A. Berger	ライコウ	61年9月7日 (79)	62年 6月24日	60	171	9.0	黄緑色 (花被先端部は 赤味を帯びる)

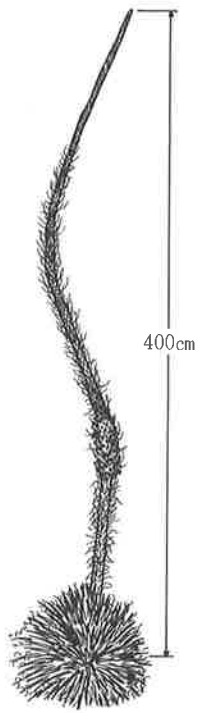
表2. 花の各部の測定値 (3花の平均値, ミダレユキは2花)

単位: cm

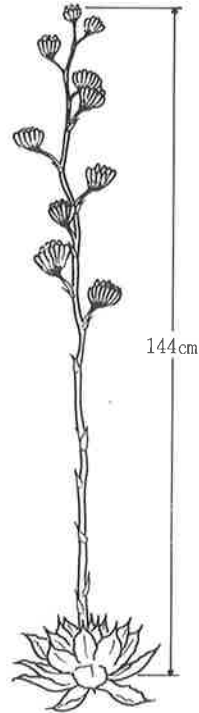
測定部位	園芸名	花被片 a	花筒 b	子房 c	雌しべ d	花糸 e	葯(やく) f
 断面模式図	ファイリウスバ リュウゼツ	2.1	1.0	2.4	5.2	5.0	2.1
	ミダレユキ	1.8	0.8	1.8	2.8	4.0	1.5
	ライジン	1.3	0.5	1.9	3.5	2.7	1.0
	ライコウ	2.1	0.9	3.6	6.9	4.9	4.9



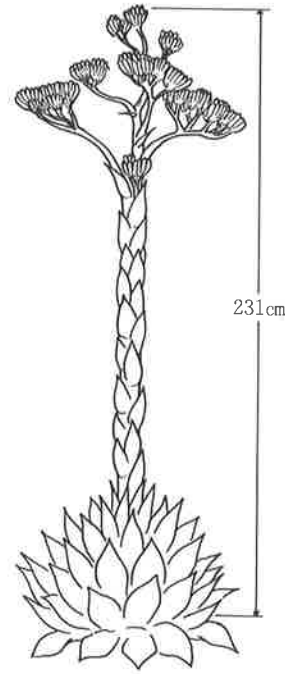
フィリウスバリュウゼツ



ミダレユキ

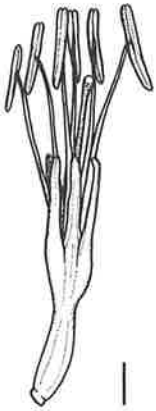


ライジン

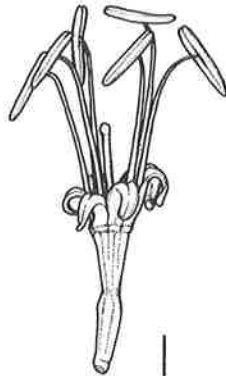


ライコウ

図1 花茎の形態



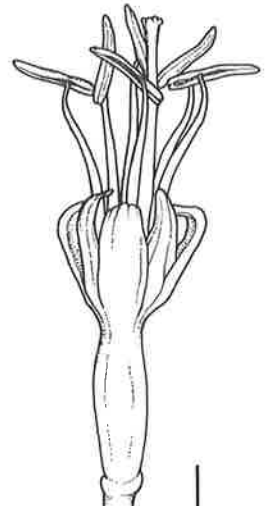
フィリウスバリュウゼツ



ミダレユキ



ライジン



ライコウ

図2 花の形態

—は1 cmを表わす。